

策定年月	令和5年3月
見直し年月	令和7年3月

麦・大豆国産化プラン

産地名：嘉麻市

（作成主体：嘉麻市麦・大豆生産技術向上事業組合）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

○現状と課題

<麦>

- ・令和6年産は、令和5年12月から令和6年2月までの長雨の影響を受け、大きく減収となった。
- ・令和7年産は、実需者から求められた品種である「くすもち二条」へと転換して71 haを作付けた。
- ・「くすもち二条」の生育に関しては、「はるか二条」に比べ、出芽期から茎立期における葉の黄化が顕著に見られたことから、今後の生育を見守りつつ、黄化の原因の把握に努め次作への改善策を検討する必要がある。
- ・作付面積を拡大していくなかで、乾きが悪いほ場への作付けが増え、その後の作業工程の遅れに繋がっている。
- ・冬季における悪天候の多さと気温の低さから、ほ場が乾かず、トラクターによる追肥の適期実施が困難となっており、強行するとトラクターの踏圧でその後の排水が悪化するという悪循環がおきている。

<大豆>

- ・令和6年産は、品種を極多収品種である「そらみのり」に転換して44ha作付けたものの、播種後の高温過乾燥によって発芽や初期生育が上手くいかず、さらにはハスモンヨトウの大量発生により大きく減収となった。
- ・作付面積を拡大していくなかで、農薬散布の適期実施が困難になっている。

○課題に向けた取組方針

<麦>

- ・土壌診断を実施し、酸性土壌の程度に応じた土壌改良剤を散布する。
- ・カットブレーカーを活用することで、透水性と通気性を改善して根域の拡大と湿害を回避するとともに、残効年数の長さから次作以降の施工数削減を図る。

<大豆>

- ・カットブレーカーを活用することで、機械走行の地耐力確保と保水性維持による干ばつ回避を図り、梅雨の合間の短い好天における播種作業を実施することで、その後の高温過乾燥に対処する。
- ・農薬散布においてドローンを活用し、適期防除を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

<麦>

嘉麻市内で生産する「くすもち二条」は、嘉麻市産として麦実需者(非公表)へ約167トン販売する見込み。

<大豆>

嘉麻市内で生産した「そらみのり」は、嘉麻市産として大豆実需者(非公表)へ約34トン販売。

意見交換を実施し、需要に応じた品種の導入や品質向上に向けた新技術の試験に取り組む。

国産麦取扱量

○大麦 単位:t

品種名	産地取扱量		実需者取扱量	
	現状 (令和7年産)	目標 (令和10年産)	現状 (令和7年産)	目標 (令和10年産)
くすもち二条	167	176	167	176

国産大豆取扱量 単位:t

品種名	産地取扱量		実需者取扱量	
	現状 (令和6年産)	目標 (令和9年産)	現状 (令和6年産)	目標 (令和9年産)
そらみのり	34	44	34	44

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

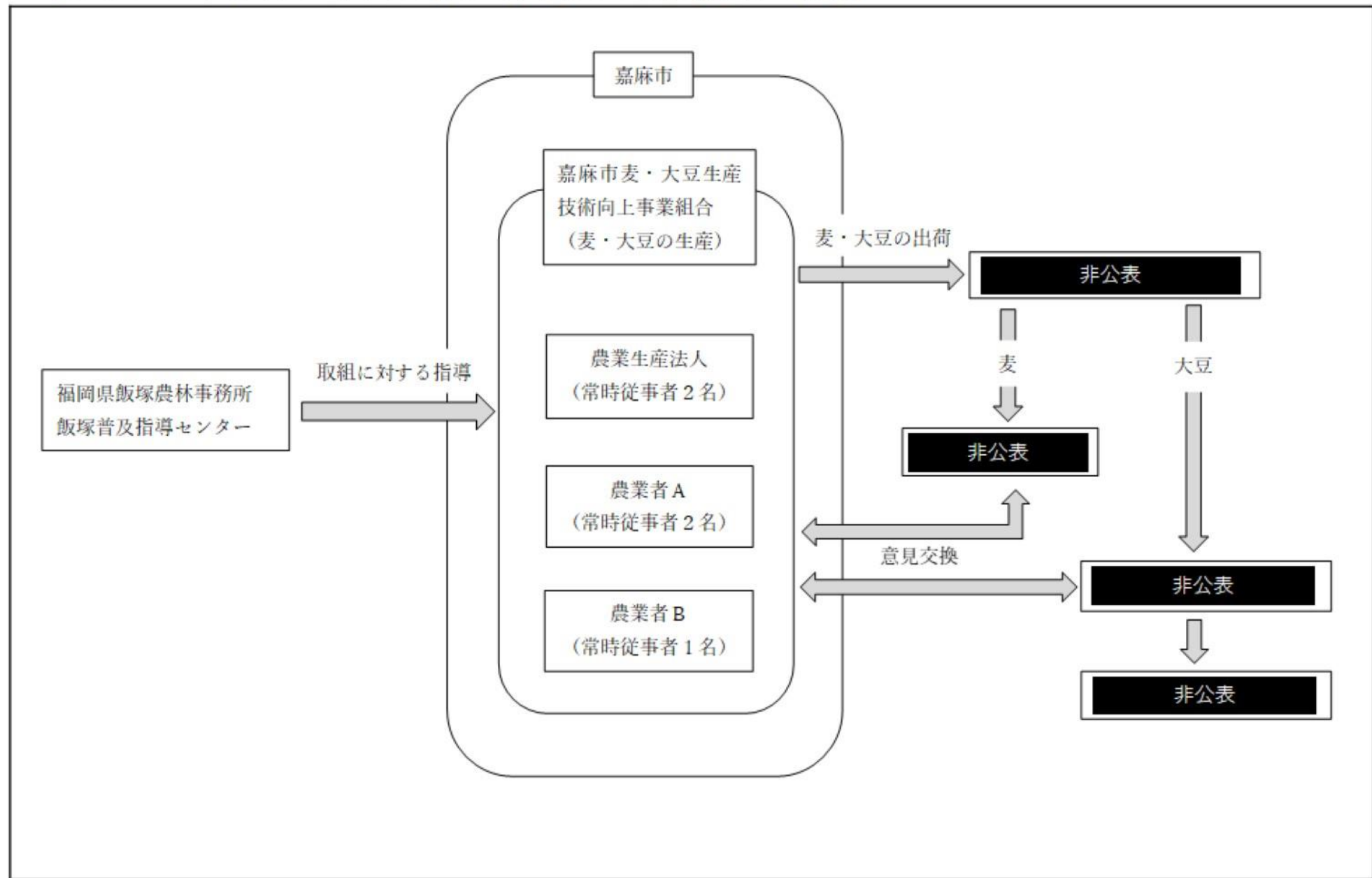
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。